

TENNOJI zoo 2026-2030

天王寺動物園第2期中期目標
策定の方向性

大阪市が動物園を運営することは

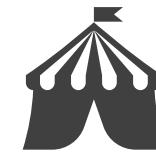
「将来世代への投資」



将来世代（子どもたち）に生物多様性を保った世界を残す
【生物多様性保全】



野生動物の観察ができる環境を提供し、興味の引き出しを開ける
【社会教育施設】



思い出になる場所を提供する
【子育て支援・世代間継承】

- 生物多様性は暮らしの豊かさを支える
- 生態系サービスを享受できる環境を維持する・**豊かに暮らせる地球を次世代に繋げることは、とても大切**
- しかしそこに気づくことは難しいし、まして具体的な取り組みなど一人一人ではなかなかできない
- その入口になることができ、**地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）と向き合う場**が「動物園」
- 子どもの学びを支える教育環境としても最適

- 動物園を運営することは、大阪市としても都市格の向上につながる
- さらに第2期はゼロカーボンおおさかの実現に向けた取組にも着手し、国際社会に貢献



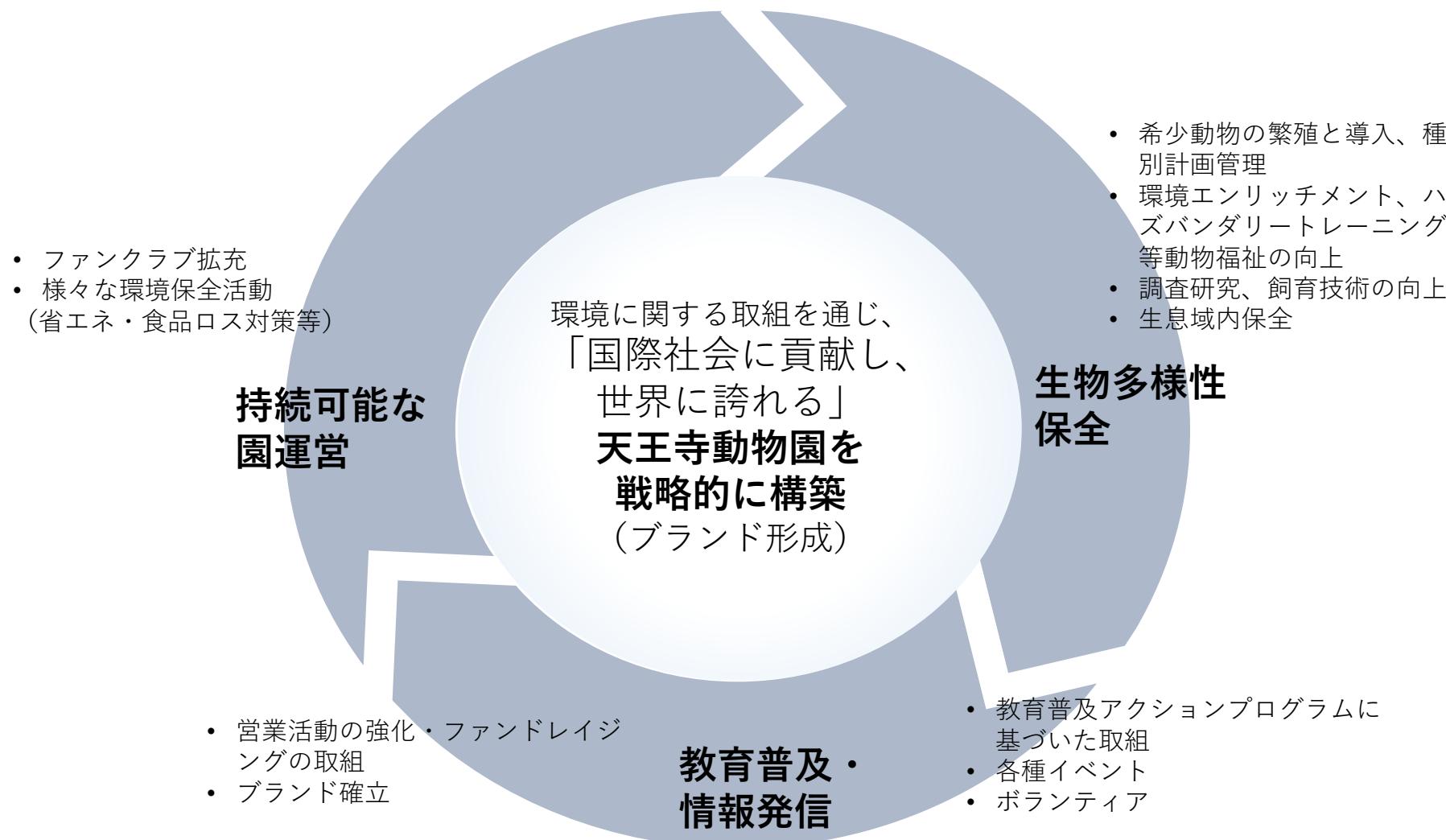
国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園

を引き続きめざします。

生物多様性の保全を含めた持続可能な社会の構築を意識し、「SDGs先進都市」大阪の実現に取り組む

- ◆ 大きな目標は第1期から変えず「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」をめざす
- ◆ 世界は生物多様性の危機に直面していることを踏まえ、今期は生物多様性の保全と持続可能な利用を意識、多様な主体と連携・協働しながら運営することを求める
→動物福祉を継続しながら地球環境の保全にも取り組んでいく
- ◆ 第1期の業務実績評価等を行う中で明らかになってきた課題等については、法人と共に検討し、経営戦略や収支計画に関することは数値化して示すのではなく方向性を中期目標で示す
- ◆ 例えば、収支計画についてはこれまで以上にファンドレイジングの取組を強化し、自己財源を集めることで事業の質の向上をめざす、等
- ◆ 経営戦略はあくまで法人が検討すべきことであり、どういったところに注力しながら「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」をめざすのかは、ある程度法人に委ねたい

- ◆ 第1期は動物福祉を特に重視してきたが、第2期中期目標期間（2026～2030）は国連が定めるSDGs最後の5年にあることもあり、環境保全についても重点的に取り組んでほしいと考えている
- ◆ 第1期中期目標期間でも様々な取組みを実施してきたため、これらを体系化し、更なる向上をめざす
- ◆ これまでの取組とあわせて、持続可能な園運営に取り組む



中期目標事項

地独法25条に次に掲げる5項目について具体的に定めるものとされている。

中期目標の期間

第1期と同様に5年を予定。収支計画については3年
で振り返ることを今後検討

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

業務運営の改善及び効率化に関する事項

財務内容の改善に関する事項

その他業務運営に関する重要事項

大項目案と課題から求めること

大項目		項目第1期	項目第2期（案）	第1期の課題から本市が法人に求めること
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	(1)展示動物の計画的な導入・確保 (2)魅力的なイベントの企画・実施 (3)積極的な情報発信 (4)質の高い来園者サービスの提供	(1)展示動物の計画的な導入・確保 (2)魅力的なイベントの企画・実施 (3) <u>戦略的な情報発信</u> (4)質の高い来園者サービスの提供	・イベントは来園者にどういう変化をもたらしたか、効果測定まで含めて実施・検討してほしい ・「楽しむ」「学ぶ」の両面で「また来たい」と思う仕掛け作りを ・情報発信は「積極的」から「戦略的」に。何を伝えたいのかを明確にし、「天王寺動物園らしさ（売り・推し）」を打ち出すように→寄附金やファンクラブ拡大につなげるようにしてほしい。
	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	(1)間近で動物を感じる機会の提供 (2)園内外における学習機会の提供 (3)NPO法人・ボランティア等との協働による学習機会の提供	(1)間近で動物を感じる機会の提供 (2)園内外における学習機会の提供 (3)ボランティア等との協働による学習機会の提供	・第1期は「触れないふれあい事業」が好評だったので、引き続き来園者と動物、双方向性のある体験ができるような機会を提供してほしい ・ボランティアについては天王寺動物園の取組に賛同、協力してくれる仲間を増やし、参加者・来園者ともに学習機会を提供できるように
	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	(1)動物福祉に配慮した飼育の実践 (2)動物福祉に配慮した獣舎整備の推進	(1)動物福祉に配慮した飼育の実践 (2)動物福祉に配慮した獣舎整備の推進	・第1期において最も評価が高かった項目。環境エンリッチメントやハズバンドリートレーニングについては、継続して取り組んでもらいたい ・技術の継承や人材の育成にも取り組み、持続性を高めること ・獣舎やエンリッチメント等、投資すれば良いものができると考えられるものについてはクラウドファンディング等自主財源も活用してほしい ・獣舎整備については更新だけでなく、維持管理についても合わせて計画し、財源の確保も考えながら検討してほしい ・既存獣舎の状況に応じて、使える獣舎は改修等で対応する等、廃棄物の発生抑止・再利用など環境に配慮した獣舎整備を検討してほしい。
	4 繁殖及び調査研究活動の推進	(1)繁殖の推進 (2)調査研究の推進と知見の共有	(1)繁殖の推進 (2)調査研究の推進と知見の共有	・第1期において進展が見られた項目 ・「世界に誇れる動物園」をめざすためにも種の保存に向けた取組は重要であり、研究機関との連携等により、社会教育施設として社会貢献にもより一層取り組んでほしい ・病院建設には膨大な費用がかかることが予想されるので、補助金だけなく自主財源の確保等も考慮してほしい

大項目			項目第1期	項目第2期（案）	第1期の課題から本市が法人に求めること
2 効率業務に運営する改善項目及び	1	自律的な組織経営	(1) 機動的な組織体制の構築 (2) 適材適所の柔軟な人事配置	(1) 機動的な組織体制の構築 (2) 適材適所の柔軟な人事配置	<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達や経営戦略等、これまでの直営時には必要なかった専門知識を持つ人材の取得をする等、自主財源の確保や戦略的な経営に必要な能力等について検討してほしい
	2	人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	(1) 人材の確保・育成 (2) 職員の能力向上と意欲喚起	(1) 人材の確保・育成 (2) 職員の能力向上と意欲喚起	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の人事制度にとらわれることのない人事配置も行ってほしい。若い職員も増えているので、可能性を見逃さない取組を検討してほしい ・営業・企画部門の強化は単に人数を拡大するのではなく、外部人材の意見の取り入れや、臨時職員の採用等柔軟な発想と対応を検討してほしい
	3	効果的・効率的な業務執行	(1) P D C Aサイクルの確立 (2) I C Tの導入及び活用	(1) P D C Aサイクルの確立 (2) <u>涉外営業・企画部門の強化</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年後・10年後を見据えた人材採用と育成が課題であると感じている。将来を見据えて人材採用の計画を立てること
3 財務内容の改善に関する事項	1	収入の確保		(1) <u>入園料収入</u> (2) <u>入園料外収入</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金による運営だけでなく、法人の努力が運営へ活かされるよう、自主財源の確保は最大の課題であると考えている ・有料イベントの実施や入園券の新たな販売形態を検討する等、現在行っている取組においても収益性をあげる方向で検討してほしい ・入園料収入と入園料外収入、それぞれ目標に向けた計画を立てて、戦略的に確保するように検討すること
	2	経費の節減			<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減については光熱水費等だけでなく、DX等の活用や事務方法の見直しによる事務費の削減も検討してほしい ・具体的な計画は法人が定める中期計画に記載されることとなるが、「経営計画が最も重要である」という意見を評価委員会委員からもいただいていることも踏まえ、法人内での検討が最も必要である
4 その他業務運営に関する重要な事項	1	内部統制の強化	(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 (2) 法人運営に必要な諸規定の整備、周知徹底及び適切な運用 (3) コンプライアンスの周知徹底 (4) 個人情報等の保護 (5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 (6) ネットワークセキュリティの強化	(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 (2) 法人運営に必要な諸規定の整備、周知徹底及び適切な運用 (3) コンプライアンスの周知徹底 (4) 個人情報等の保護 (5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 (6) ネットワークセキュリティの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスについては引き続き取り組むこと ・職員の安全衛生管理についてはメンタル面にも留意し、職員の働きやすい職場作りをめざすこと ・長く働きなくなる職場作りを心がけてほしい ・チンパンジー逸走事故のような緊急事態について対応できるよう、事故等に関する項目が必要（マネジメントとは別途）など第1回評価委員会での意見も踏まえて、項目の増加等も含めて検討が必要 ・第1期でもSDGsに関する取組を色々と実施していただいたが（TeamExpoへの参画、ボトルキャップ回収、ユニフォームのアップサイクル等）第2期も生物多様性の保全、環境教育を軸に、ほかの企業との連携など、より一層、気候変動対策や海洋・陸上の生態系の保護などにつながる地球環境の保全に取り組んでほしい
	2	来園者の安全確保			
	3	職員の安全衛生管理			
	4	環境に配慮した取組の推進			
	5	情報公開の推進			
	6	BCPの策定		<u>BCPの運用を含む緊急事態発生時に備えた取組</u>	

大幅な変更はない

第1期で明らかになった課題は詳細内容に盛り込む